

65. 高齢者の体力づくりとコミュニティの環境を整え、地域の産業に貢献

グループ名 吉野倶楽部
代表者 藤井 ゆかり

① 活動の目的

高齢者の休眠能力を引き出し、生かすために体力づくりとコミュニティ環境を設置。そして目標である「ものづくり」に取り組みながら地域産業に貢献する生きがいをづくり。

② 活動概要

奈良県吉野地域の産業は林業・お箸製造・手漉和紙です。現在ではこれらの継承者が減少し、過疎化と共に地域産業が衰退しています。

問題解決のために、地域の各部門(林業・お箸・手漉和紙)のシニア有志が結束。「吉野地域のシニアが親睦を深め、地域産業にも貢献していくこと」を目的として、2014年から活動してきました。

この度の活動は伝統工芸の手漉和紙を広くつなげていくことです。まずは地域のシニア達と手漉和紙の可能性をさぐる体験をはじめました。また地域外でも和紙の体験会を開催しました。「吉野倶楽部」林業チームのシニアは、和紙工芸作品の装丁として貴重な吉野スギで額製作に結び付けていきつつあります。

地域での製作した和紙作品は、毎年開催される地域の灯り展に出品することで貢献にも努めています。

<具体的活動報告>

手漉き和紙の可能性を測るために、専門講師のもとで基礎から学びました。

様々なテクニックがある中で、日本古来の技術である料紙製作・柿渋加工を選択しました。和紙の素材は「みつまた・雁皮・楮」の三種類があります。料紙加工講習は主に雁皮ですが、それを地域の和紙(吉野和紙は楮)に応用し、その違いを学ぶ必要がありました。また柿渋講習は楮紙ですが、デザインの工夫と柿渋液の特殊な性格を学ぶ必要がありました。

まず、学んだ技術について地域の伝統工芸士の方と取組ました。和紙の染色・柿渋の技術応用を繰り返し、地域指導の体験会にて使用する見本製作までに至りました。

「吉野倶楽部」のお箸チームはお箸工房跡地を地域のコミュニティ場所として設け、体力づくりに卓球を毎日練習していますが、和紙体験会はコミュニティ要素としても発揮できました。以下その具体的な活動です。

1 「受講内容・和紙染め、柿渋」

・和紙に手法として板締め染・型染め・絞り染・銀箔・ロウ抜き等の加工を学びました。

紙に染色は、紙の強度を弱めます。手漉き和紙の特徴はこれを可能にします。

布で染色する手法で和紙に染色、さらに二回目の染色と繰り返します。デザインは日本独特の銀箔他の加工仕上げをします。デザインの質を高めることで、製品化に可能性も見えてきました。

・柿渋は液の特徴と和紙が結びつけられて、日本の生活用品の中に生きていた。現代は化学薬品が人の生活に浸透し不健康な影響与えているのに対して、日本の知恵がいかに素晴らしいものであり、忘れ去れていることを実感しました。

柿渋は強い性格ですが人体に無害で、その特徴である防水・強度性を手漉和紙に結びつけた開発作品の可能性も感じました。各単元はそれぞれ月一回の半年コースで終了しました。

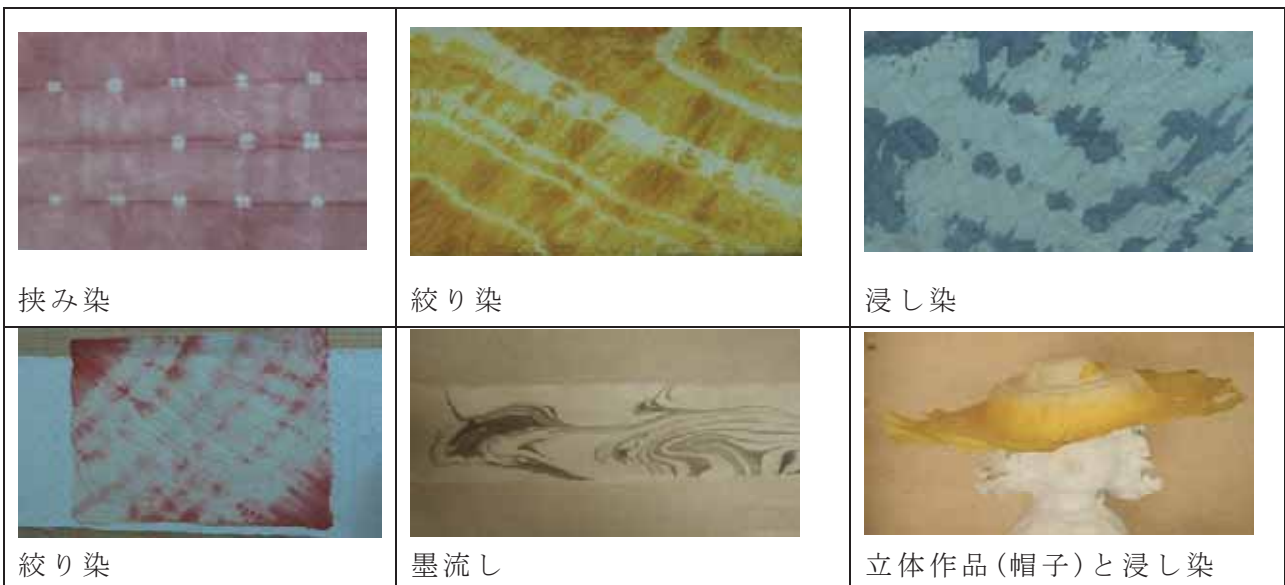
2 体験会用 試作品製作

染色道具と手法によって形成されるデザイン・紙の風合いの違いを試験。

板締め染試作過程(一部)



その他の見本作品



3 試作品経て「地域の方に和紙染指導・体験一回目」

場所=奈良吉野町国栖地区にて7名参加(吉野在住アメリカ人1名含む)

テーマ:①色の調合方法も学べるように、各自でオリジナル色作る。

② 試作見本の中から好きな染色デザインを参考にしてその手法を学ぶ。

材 料:=和紙(サイズは 32x145cm を 一人約 3 枚ずつ)を参加者に提供

当初は 2 枚提供が、製作過程で反響が大きく、最終的にもう一枚紙を割り増し

内 容:一枚大判和紙(32x145cm)を希望サイズに指でカットする方法「紙の水切り」を指導。与えられた和紙を約三枚の紙に水切りし、一枚目は基本通りの染色、二枚目・三枚目と各自のアイデアで製作しました。参加者の個性あるデザインがうまれ刺激も受けました。指導ポイントとして、和紙の原材料が楮植物であるプロセス説明・紙の染色は、手漉和紙であるがゆえに、強靱であるため染色可能であること・乾燥後の紙の強さも「楮」の特徴等伝えることができました。乾燥後はミシン縫製により袋も可能として見本披露。



3 地域産業発信として「Workshop 紙染色」

場所=京都二条「ゲストハウス」 6名参加(京都在住アメリカ人・その他関西在住)

奈良吉野和紙を使い、和紙の材料及び工程の説明～染色の体験 イベント企画しました。

和紙の素材と工程・特徴を説明後、染色体験。吉野和紙の外部発信活動、PR 目的。



和紙の材料

4 「地域の方に柿渋指導・体験二回目」

場所=奈良吉野町国栖地区にて7名参加

竹籠に和紙を下張り。柿渋加工した和紙をその上に貼る。デザインは色和紙の組み合わせと柿渋加工した浮世絵を貼付。



5 上記作品にあわせて、木工チームが吉野産スギで額製作中



額製作

年輪 80 年のスギ材

墨流しの和紙で風合い測る

③ 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000 円
支出明細		33,600 円
「手漉き和紙」	染色・柿渋用試作品及び体験会用 32x145cm 66 枚	
「染料等材料」	染料・柿渋・銀箔・ミョウバン等 17,032 円	25,955 円
	染色小道具(刷毛・竹籠・他下敷ナイロン・手袋等) 8,923 円	
「講習参加費」	染色・柿渋加工 2 コース・6 ケ月	33,696 円
「会場費」	京都 workshop 用にゲストハウス使用一日	10,300 円
「交通費」	羽曳野市から吉野町国栖・京都往復 ガソリン代	21,119 円
「印刷費」	説明書コピー等 5,220 円	
「事務用文房具」	+ 「通信費」 試作品他郵送 2,253 円	8,229 円
	756 円	
支出計		132,899 円